

学校体育におけるホッケー型ゲームの教材的可能性に関する一考察 A study on the hockey game's educational possibility in school physical education

1K07B021-7

指導教員 主査 吉永武史 先生

井上 陽子

副査 磯繁雄 先生

【研究の目的】

私は、大学4年間、フィールドホッケー部員として活動した。私がホッケーを始めたのも、英国での体育の授業が契機である。そこで、私は、英国でのフィールドホッケーの授業を思い出し、わが国の学校体育におけるホッケー型ゲームの教材的可能性はないのだろうかと考えた。これが本研究の直接的な動機である。

保健体育科の新学習指導要領（2008）において、球技の枠組みが変更された今、ホッケー型ゲームは、まさに、攻守入り乱れ系のゴール型ゲームに分類される。さらに、近年の生涯スポーツの拡大に伴って、ニュースポーツが表舞台に登場し、これらを教材として導入する動きも活発になったり、近年の教育改革に伴い、ホッケー型ゲームに学校体育における教材的可能性が見いだせるのではないかと考えた。

そこで、本研究では、特に中学生の多種多様な運動経験の保証を目指し、新学習指導要領にみるゴール型の球技に関する内容を明らかにする。その上でホッケー型ゲームの起源から変遷、そして現状をふまえてホッケー型ゲームの独自性を示し、ホッケー型ゲームの学校体育における教材的可能性について検討することを目的とする。

【研究の方法】

本研究は、ホッケー競技や学校体育の球技の学習指導に関する文献資料の講読及びB氏に対するインタビュー調査をもとに行う。ホッケー競技の資料に関しては、海外文献もその対象としながら行う。

【第1章】新学習指導要領にみるゴール型の球技に関する内容

ゴール型の球技の本質は、まさに攻防することである。ゴール型の球技の授業において、ボール操作の技術の指導が中心であるのが一般的であるが、実際には、ボールを持たないときの動きのほうがより重要であり、その一つとして、「サポート」の動きがあげられる。また、生徒のゲームパフォーマンスを向

上させるためには、技能の発揮に加えて、戦術的課題の解決策としての知識とそれを活用する判断力が重要である。さらに、これからの知識基盤社会に向けて、日本では子供たちの豊かな心を育むことを重要視している。直接的な接触が多いゴール型の球技の授業では、子どもたちに、ルールや相手を尊重するといったマナーを守る等、フェアにプレイに取り組む態度を育むことも重要である。

【第2章】ホッケー型ゲームの変遷とその種目特性

ホッケーといっても、フィールドホッケー、アイスホッケー、ユニバーサルホッケー（ユニホック）などさまざまある。本章では、スティックを媒体としてボールを扱うという独自の特性やその起源の共通点から、フィールドホッケーとユニバーサルホッケーをホッケー型ゲームとし、その特性から他種目との差別化を図り、ホッケー型ゲームの魅力を検討した。その結果、ホッケー型ゲームだからこそ得ることができる学習内容が明らかになった。

【第3章】学校体育の球技教材としてのホッケー型ゲーム

B氏に対するインタビューをもとにホッケー型ゲームの実際の授業を分析し、主に、フィールドホッケーの球技教材としての可能性を検討した。その中でホッケー型ゲームには費用面や安全面等、実践的課題が存在するも、ホッケー型ゲームは新しく始められる数少ない種目であることをはじめ、教材としての魅力は大きいことが示唆された。

【結章】

本研究を通じて、ホッケー型ゲームが日本の掲げる教育課題に対して貢献できる可能性があることが明らかになった。しかし、その独自性から特殊な技術の習得が必要であるため、道具を操作する時間を十分に確保することに対して留意する必要があるといえる。また、今後の課題として、ホッケー型ゲームの教材化にむけた組織やシステムの確立の必要性を提言する。